

MACF 礼拝説教要旨

2024年6月2日

「律法によらず、キリストの恵みによって」

ヘブライ人への手紙 10

1 いったい、律法には、やがて来る良いことの影があるばかりで、そのものの実体はありません。従って、律法は年ごとに絶えず献げられる同じいけにえによって、

神に近づく人たちを完全な者にすることはできません。

2 もしできたとするなら、礼拝する者たちは一度清められた者として、もはや罪の自覚がなくなるはずですから、いけにえを献げることには中止されたはずではありませんか。

3 ところが実際は、これらのいけにえによって年ごとに罪の記憶がよみがえって来るのです。

4 雄牛や雄山羊の血は、罪を取り除くことができないからです。

5 それで、キリストは世に来られたときに、次のように言われたのです。

「あなたは、いけにえや献げ物を望まず、

むしろ、わたしのために

体を備えてくださいました。

6 あなたは、焼き尽くす献げ物や

罪を贖うためのいけにえを好まれませんでした。

7 そこで、わたしは言いました。

『御覧ください。わたしは来ました。

聖書の巻物にわたしについて書いてあるとおり、

神よ、御心を行うために。』」

* * * * *

1) 律法よっての救いはない

律法は人間社会における「義務」や「掟」として理解されています。

ですからそれらを完全に守ることができて初めて「安心」できるのです。

ところが私達は律法を完全に達成することができないのです。

そして「律法」は、わたしたちのためのガイドラインとも理解することができます。

パウロはこう書きました。

ガラテヤの信徒への手紙 3章

- 23 信仰が現れる前には、わたしたちは律法の下で監視され、この信仰が啓示されるようになるまで閉じ込められていました。
- 24 こうして律法は、わたしたちをキリストのもとへ導く養育係となったのです。わたしたちが信仰によって義とされるためです。
- 25 しかし、信仰が現れたので、もはや、わたしたちはこのような養育係の下にはいません。
- 26 あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。

律法は私達を「監視し」「養育係」の役割を果たすものとして理解されています。そして律法を破ったり、律法から逸れたら罪の意識が生じます。その意識は私達を「罪責感」のもとに閉じ込めるのです。さらに言えば、律法はその罪責感を拭うことができません。律法は断罪するだけなのです。律法は赦しをもたらしません。

2) 赦しのための「いけにえ」

律法のもとでは「罪の赦しのためにいけにえ」が要求されます。しかし、そのいけにえの有効内容は「それまでの罪」であり「これからの罪」にはまったく効力がありません。つまり、いわば対症療法でしかありません。これはいわば「気休め」程度の役割しか果たさないかもしれません。だから、罪の意識は消えませんし、毎回罪を犯したり、罪の意識が心に残っているときは、なおさら心の中に痛みや辛さとして思い出されるのです。そして「いけにえ」を何度も捧げなければならない状況に、うんざりし心の重荷を下ろせないまま絶望に向かってしまうことがあるのです。もともとは、律法は私たちに「神様、弱いわたしを憐れんでください」という思いへと駆り立てる役割を担っているのです。

3) いけにえを好まない神

神は動物が人間の罪を赦すためのいけにえとして捧げられ続けることを決して喜んでおられません。キリがないからです。神様は誰が死ぬことも、動物が死ぬことも決して喜ぶことはありません。

そこで罪の赦しのための最終的な手段として、神様はイエス様の「存在と

いのち」をわたしたちの赦しのために提供してくださいました。
それまでの「いけにえ」のシステムを終わりにし、最終的な手段として
新しい、そして他に類のない方法を選ばれたのです。
御子イエス様が私達の「存在といのち」の代償となってくださいました。

律法における生けにえとは別なシステム、すなわち御子イエス様を私達の
罪の贖いとして提供し、裁くことによって成し遂げてくださったのです。

4) イエス様こそ「神の御心を実行する救い主」

イエスさまは、その出来事がどれほど辛く、厳しいとしても神様から
遣わされた救い主としての役割を担い、それに耐えてくださいました。
パウロがフィリピの信徒への手紙に書いている通りです。

フィリピの信徒への手紙 2 章

- 6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは
思わず、
- 7 かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。
人間の姿で現れ、
- 8 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。
- 9 このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。
- 10 こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、
- 11 すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるので
す。

キリストの謙遜、そして従順こそが私たちへの救いをもたらすための重要な要素でした。
私たちに成し遂げることができなかったことをキリストは実行してくださいました。

私たちは律法を実行したり、いけにえを捧げることで救われるのではなく
イエスさまの贖いのゆえに、イエスさまの提供している恵みによって、救われるのです。
自分では自分を救い得ないと理解し、イエスさまに対して「よろしく願います」という
信頼が大事なのです。

Youtube での礼拝映像はこちらです

<https://youtu.be/11C-tFXCrK4>